

## 物流研究会

[http://lse6.u.e.kaiyodai.ac.jp/Navi\\_Logi/index.html](http://lse6.u.e.kaiyodai.ac.jp/Navi_Logi/index.html)

### 1. 2011 年度春季研究会

(1) 日時：平成 23 年 5 月 27 日(金)

13:00～15:50

(2) 場所：兵庫勤労市民センター(2 階第 2 会議室)

(3) 講演内容

テーマ講演が 2 つ及びディスカッションが行われた。

「東日本大震災の実地調査報告」

石黒一彦（神戸大学）

4 月に実施した調査では、仙台港において埋め立て部の耐震バースの被害が大きい一方で、掘り込み部の非耐震バースの被害が小さいなど、想定と異なる被害が生じている点が印象的である。既に供用が再開しているフェリーバースの状況、コンテナターミナルにおける積荷の散乱、火力発電所向けの野積みバルク等の被災状況、石巻港での瓦礫の集積状況、その他日本製紙工場周辺の被害状況などの現地取材が報告された。

周辺港湾でも、復旧までは数年掛かる見込みで、防波堤を新たに設置した場合の入射波といった静穏度確保、ガントリークレーンなど荷役施設の復旧にむけた中古機械の調達など多くの課題がある。

仙台運送あけぼの倉庫など地元の運送事業者が支援助物資一次拠点などの倉庫機能を受け入れる一方、仕分け等の課題が指摘された。こうした仕分け業務にボランティアを受け入れるためには大規模な公共施設が必要で、在庫情報が不完全な点も指摘されることが報告された。

「東日本大震災の物流への影響について」

黒川久幸（東京海洋大学）土井義夫（朝日大学）

東日本大震災の物流への影響について、各種報道発表や施策、確認できた荷主への一部ヒアリングに基づき、物流機能（輸送・配送上の問題、保管・荷役上の問題、情報上の問題）、サプライチェーン上の問題、物流のこれからについて報告された。

具体的には、輸送上の問題（ガソリン不足、運転者の通勤困難、風評被害による輸送拒否）に加えて、保管上の問題（自動倉庫の荷崩れ、計画停電での停止、計画停電での仕分け機の停止）がある。さらに荷役上の問題（被災地における仕分け）や、情報上の問題（異常発注、注文データの消失が発生）が生じた。

サプライチェーン上の問題としては、部品供給、工場、計画停電による影響（九州工場、海外工場からの東北、北海道への供給）が見られた。なお 1995 年当時、阪神大震災と物流問題(<小特集>阪神大震災) (Navigation : 日本航海学会誌) や、ロジスティクスと危機管理 (日本物流学会誌) で検討されていたことも報告された。

「ディスカッション」

下記のような議論がなされた。

- 1) サプライチェーンの特に初動対応、また船からの支援、被災の際の救援物資（毛布、食料などの組み合わせ）については、貯蔵から提供・配布時にパッケージ化し、有事の際のコンテナでのワンセットでの形が求められる。
- 2) 輸送モードでは、トラック・倉庫と、内航海運では、自治体・協会レベルを含めて十分な連携が取れていない可能性があり、一元管理が重要である。
- 3) 最終目的地（被災地）への運搬がネックであり、RORO 船の可能性等が今後の課題。
- 4) 運送事業者の被害状況について、コンテナの抜港の実態把握。
- 5) 港の整理と、今後の展開（土木系を中心とした）について、モノが壊れるのを諦めて、ヒトを救う方向で議論が進む可能性がある。
- 6) 津波のなか、山間部では冬場に備えての対応が役立った。耐震岸壁の設計面が課題。

(4) 研究会総会 15:35～15:50

1) NAVIGATION の執筆について

報告書を作成して、秋も戦略港湾で進めていること、今後の組織の体制について検討することが確認された。

2) 予算について

テーマが近接する他の研究会との交流を進める合同的な研究会開催も今後検討していくことになった。

## 2. 2011 年度春季運営委員会

(1) 日時：平成 23 年 5 月 27 日(金)

12:00～12:55

(2) 場所：兵庫勤労市民センター(2 階第 2 会議室)

(3) 議題

1) 2011 年秋期研究会について

三鷹で講演される秋のスケジュールを決定した。震災によって、春に予定していた戦略港湾について、特別講演と一般講演を行う予定で引き続き調整することを確認した。また外部の講演への謝礼額について検討した。

2) 研究会委員の任期について

継続して検討していくことになった。

(幹事：土井義夫)